

▶▶▶ 南関町

重点
プロジェクト

移住定住支援

分類 移住定住促進

総事業費 732,500千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2026年3月31日

数値目標 ●社会移動／人……………±0人
●合計特殊出生率／人……………1.8人

〈SDGs〉関連するゴール



住んでよかったプロジェクト

あらゆる世代の方を対象に、本町に住んでみたい、住んでよかったと思っただけのよう定住促進を柱とした様々な施策に取り組んでいます。全国に先駆け平成23年に子育て・定住対策としてスタートした「住んでよかったプロジェクト」により、減少の一途だった町児童生徒数が増加に転じました。

第3期プロジェクト(R3)では住民の再エネ設備補助なども加え持続可能な社会づくりを目指しています。

プロジェクト事業は以下の18事業となります。

- 定住住宅取得等補助金 ●関所つ子応援金 ●空き家バンク事業 ●タクシー料金助成事業
- 乗合タクシー事業 ●就職激励金事業 ●空き店舗等活用開業支援事業 ●子ども用品リユース
- 家庭内保育世帯応援金事業 ●保育料助成金事業 ●放課後児童健全育成事業
- 子どもインフルエンザ予防接種助成 ●子ども医療費助成 ●小中学校給食費補助事業
- 町外小中学校当給食費補助 ●家庭用再生可能エネルギー導入促進事業
- ファミリーサポートセンター事業 ●くらしいきいきサポート事業



町観光名所【御茶屋跡】

重点
プロジェクト

地域資源を活かした低炭素のまちづくり

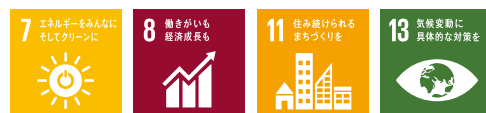
分類 まちづくり

総事業費 10,000千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2022年4月1日～2023年3月31日

数値目標 ●竹林の整備面積……………10,000㎡
●竹材の買取量……………300t

〈SDGs〉関連するゴール



南関版低炭素のまちづくり

少子高齢化による後継者不足は、農林業にも大きく影響を及ぼし持続可能な地域づくりを阻害要因となっています。荒廃竹林による生態系の破壊や土砂災害被害の拡大など「竹害」は大きな問題です。但し、資源として有効活用出来れば地域の可能性は大きく広がります。

本町では里山の自発的な整備に繋げようと、竹山から竹を出荷し企業に買取される際の金額の上乗せ事業や、竹林整備補助、林道の維持管理などの事業を行っています。

伐採された竹は、町内のバイオマスエネルギー事業所での燃料として利用されるほか、筍や竹のお箸など町の名産品として持続可能な地域資源として活用されています。

また、町では、庁舎の建て替え事業(令和4年1月開庁)において、旧県立南関高校校舎を庁舎へ改修するとともに、熊本県産の杉桧を活用した木造増築棟を建設し、二酸化炭素排出量を鉄骨造の躯体と比べて391.8t削減するなど低炭素のまちづくりに取り組んでいます。その他、町内の使用済み天ぷら油を回収して公用車の燃料とするなどといった取り組みも継続して行っています。

竹山や山林を継続して整備し、地域資源として活用することで脱炭素社会への一助となることは間違いありませんが、事業を安定的に継続するためには財源確保が必要不可欠です。



人・まち・自然を繋ぐ「竹あかり」